

# 安平町復興まちづくりに関する意向調査 結果概要

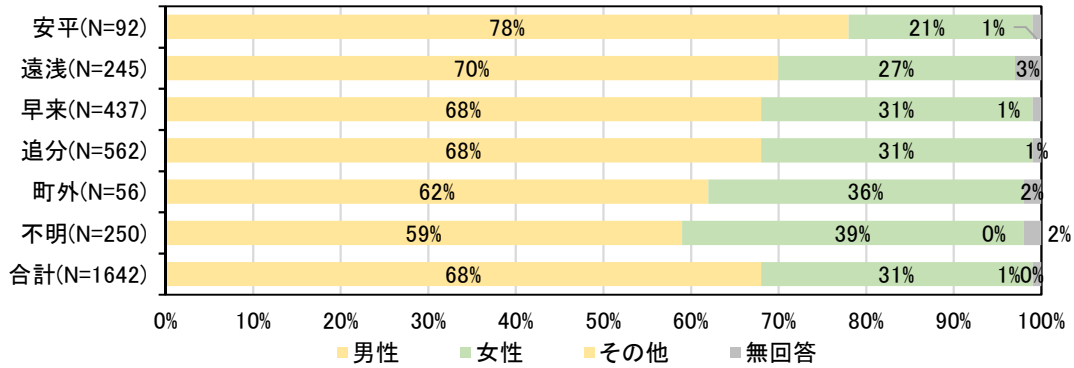
## ■調査概要

- 調査期間：令和元年5月17日～令和元年6月3日
- 配布先：安平町全世帯及び町外避難世帯
- 配布数：4,095通、回収数：1,642通、回収率：40%（令和元年6月30日時点）

## 問1 あなたの性別について

- 回答者の性別は68%が男性で31%が女性、1%が無回答であった。
- 安平地区では回答者92名のうち8割が男性と他地区と比較して、男性の回答割合が高い。

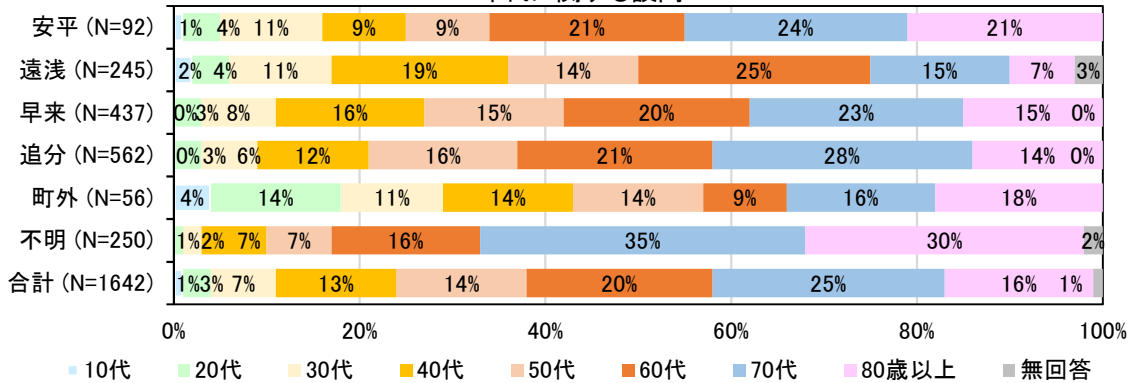
性別に関する設問



## 問2 あなたの年代について

- 年代に関する回答は、10代が1%、20代が3%、30代が7%、40代が13%、50代が14%、60代が20%、70代が25%、80歳以上が16%、無回答1%であった。
- 回答者のうち約6割が60代以上で、特に安平地区では約7割が60代以上と高齢者の割合が高い。

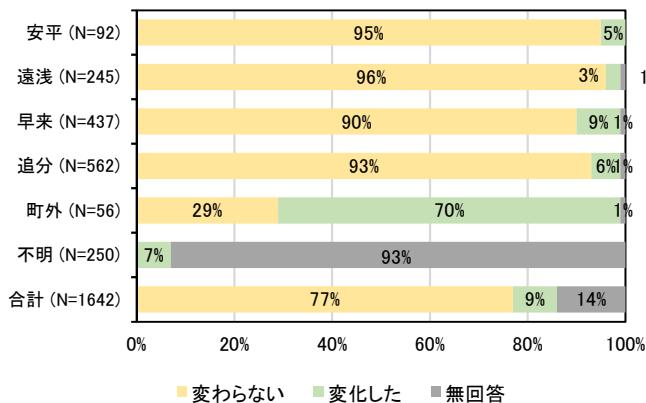
年代に関する設問



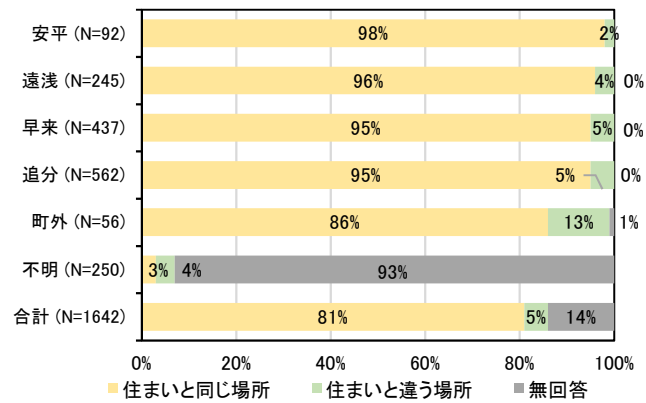
## 問3 震災前後の居住地と地震発生時にいた場所

- 震災前後の居住地域に関する設問では、変わらないが77%、変化したが9%、無回答が14%となっており、1割の回答者が居住地域が変化している。
- 震災時の居住地域と震災時にいた場所が異なる回答者は5%で、8割以上が居住地域で被災している。

震災前後の居住地域に関する設問



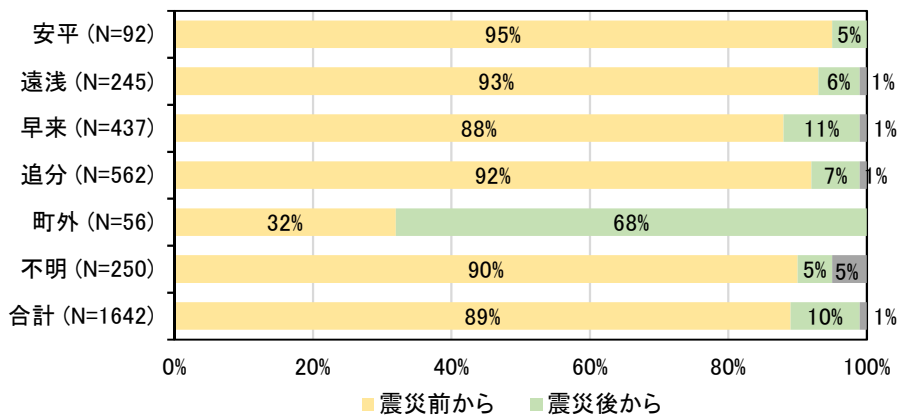
震災発生時にいた場所に関する設問



#### 問4 現在の住まいの状況

- 現在の住まいに関する回答は、震災前から住んでいるが89%、震災後からが10%、無回答1%である。
- 震災をきっかけとした住まいの変更は1割となっているが、現在町外に在住している回答者の7割は震災後との回答となっており、震災によって転居を余儀なくされたことが伺える。

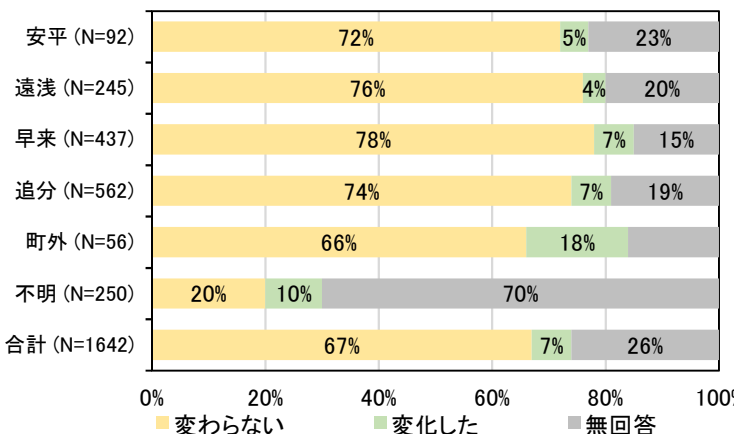
現在の住まいに関する設問



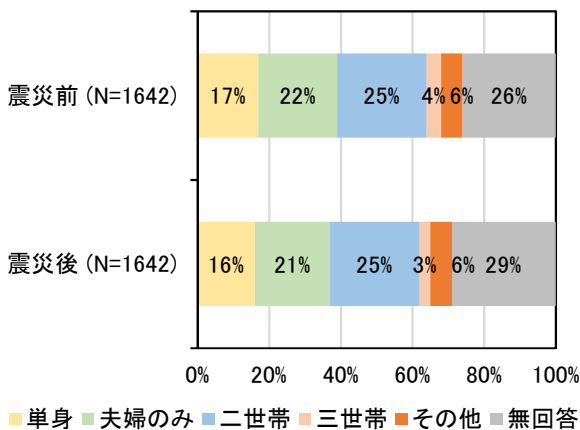
#### 問5 震災前後の世帯構成

- 震災前後の世帯構成の変化は、変わらないが67%、変化したが7%、無回答が26%となっている。
- 世帯構成は、夫婦のみ（震災前22%、震災後21%）及び二世帯（震災前25%、震災後25%）の割合が高い。

震災前後の世帯構成の変化に関する設問



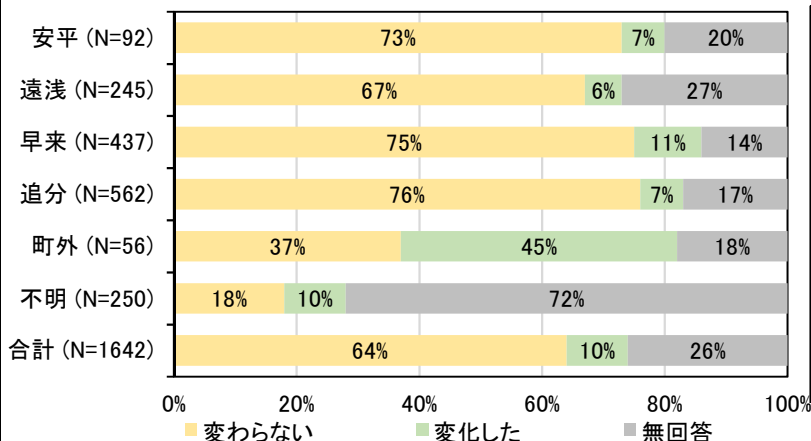
震災前後の世帯構成の割合(合計の数値)



#### 問6 震災前後の住まいの種類

- 震災前後の住まいの種類は、変わらないが64%、変化したが10%、無回答が26%となっている。
- 住まいの種類は、震災前が持家(戸建)の割合が48%となっていたが、震災後は44%に低下している。また、住まいが変わった158名のうち、仮設住宅の居住者は44名(28%)となっている。

震災前後の住まいの種類に関する設問

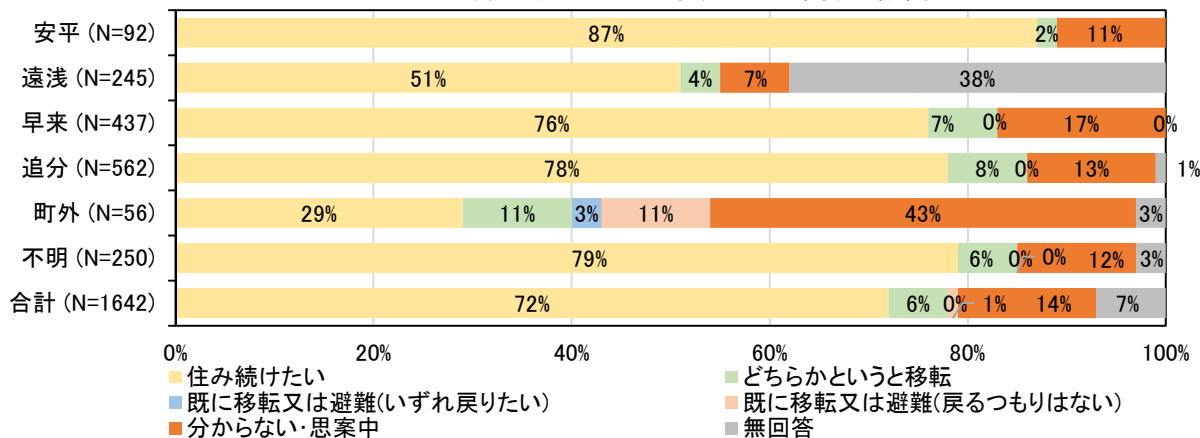


	震災前 (N=1643)	震災後 (N=1643)
持家(戸建)	48%	44%
持家(集合住宅)	1%	1%
借家(戸建・集合住宅)	8%	7%
町営・公営住宅	7%	7%
社宅	4%	4%
福祉施設	4%	4%
間借・下宿・寮	1%	1%
仮設住宅 (みなし仮設・トレーラーハウス等)	0%	3%
その他	1%	1%
無回答	26%	28%
合計	100%	100%

### 問7 今後の安平町への居住意向

- 今後の安平町への居住意向では、72%が住み続けたいと回答している。
- 一方、町外の回答者は、既に移転又は避難（戻らつもりはない）が11%、同様に、分からない・思案中も43%となっており、既に移転又は避難している回答者でいずれ戻りたいは僅か3%であった。

今後の安平町への居住意向に関する設問



### 問8 安平町に住み続けるか・移転するか・戻るか判断するうえで重視すること（複数回答）

- 安平町に住み続けるか・移転するか・戻るか判断するうえで、最も重視されている事項は、買い物、子育て、教育、健康、医療、福祉等の環境充実（39%）であり、次いで、自宅の再建や住まいの確保（35%）、地震からの安全性の確保（30%）が続いている。
- 一方、町外では、自宅の再建や住まいの確保が4割を超えており、町外へ転居を余儀なくされている回答者への住まいの対策が急務であることが伺える。

	安平地区 (N=92)	遠浅地区 (N=245)	早来地区 (N=437)	追分地区 (N=562)	町外 (N=56)	不明 (N=250)	合計 (N=1642)
自宅の再建や住まいの確保	34%	15%	39%	42%	43%	28%	35%
地震からの安全性の確保	22%	24%	32%	32%	29%	27%	30%
買い物、子育て、教育、健康、医療・福祉等の環境の充実	32%	25%	47%	45%	29%	29%	39%
地域コミュニティ、家族や知人など人間関係があること	32%	20%	33%	31%	16%	26%	29%
道路、橋、公共施設など町全体の復旧復興の状況	15%	7%	20%	19%	7%	19%	17%
仕事	27%	21%	35%	30%	27%	21%	29%
特に重視するものはない	12%	9%	7%	9%	7%	13%	9%
その他	1%	4%	5%	4%	11%	5%	5%
無回答	5%	31%	4%	4%	5%	14%	10%

※最も回答割合が高い項目に着色

## 2. 北海道胆振東部地震発生時の状況

### 問9 震災直後の地震や避難に関する情報源（複数回答）

- 震災直後の地震や避難に関する情報源は、全ての地区でラジオが最も高くなっており、町全体で46%となっている。次いで、テレビ（地上波/BS）が37%となっている。
- また、近所の方や地域の方からも26%みられ、地域コミュニティの重要性が伺える結果となっている。

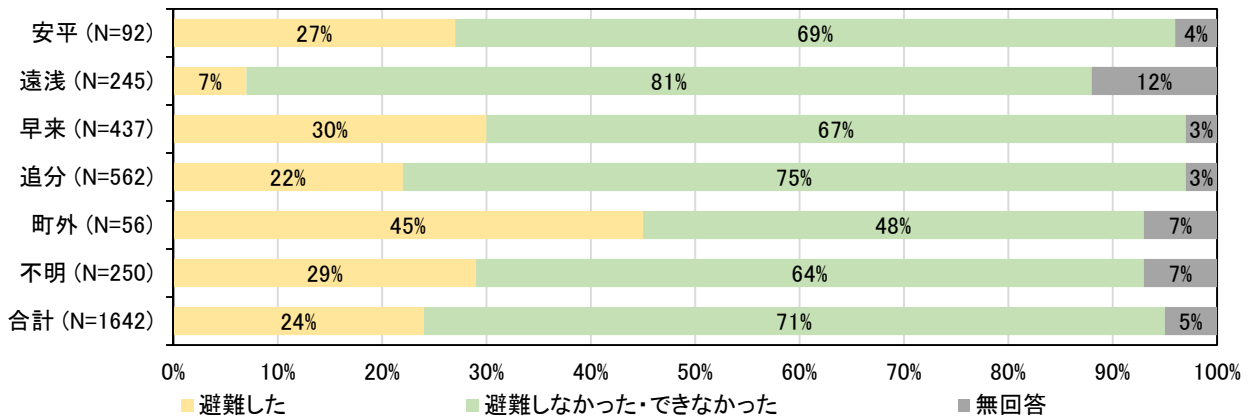
	安平地区 (N=92)	遠浅地区 (N=245)	早来地区 (N=437)	追分地区 (N=562)	町外 (N=56)	不明 (N=250)	合計 (N=1642)
ラジオ	55%	35%	50%	49%	36%	44%	46%
テレビ(地上波/BS)	36%	20%	28%	49%	30%	41%	37%
あびらチャンネル	8%	4%	7%	8%	—	9%	7%
インターネット等	12%	13%	21%	20%	16%	10%	17%
防災無線放送	2%	1%	4%	5%	—	5%	4%
近所の方や地域の方から	26%	16%	31%	29%	20%	21%	26%
仕事先の同僚や知人から	8%	7%	14%	9%	14%	3%	9%
情報を入手できなかった	9%	15%	12%	8%	14%	9%	11%
その他	5%	5%	7%	5%	4%	6%	6%
無回答	4%	30%	3%	3%	7%	8%	8%

※最も回答割合が高い項目に着色

### 問10-1 地震直後の避難

- 震災直後の避難について、避難したが24%で、避難しなかった・できなかったが71%、無回答が5%となっており、避難しなかった・できなかったの割合が高い。
- 地区別には、遠浅が避難率が1割未満と低い。一方、町外の回答者は約5割が避難したと回答するなど、避難率に関しては地区別に差がみられる結果となった。

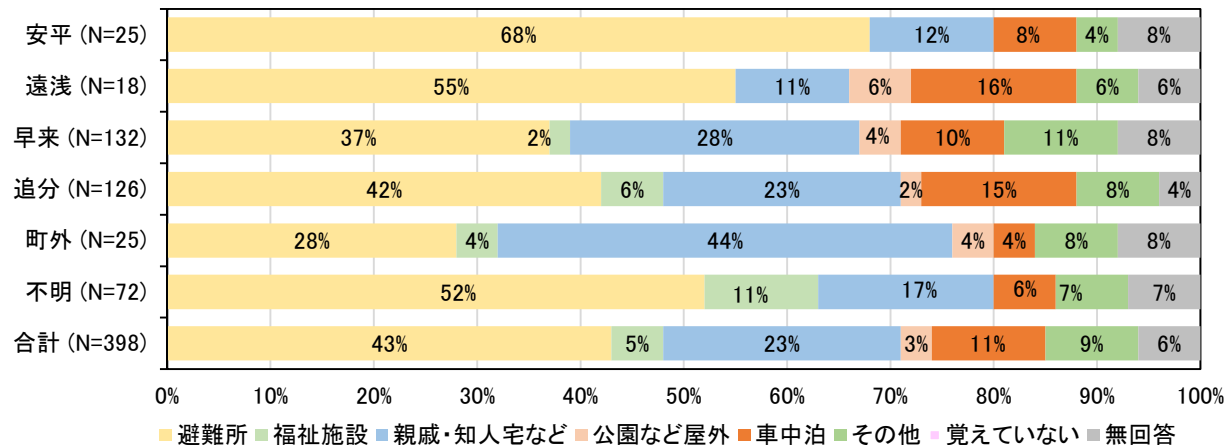
地震直後の避難に関する設問



### 問10-2 一番最初に避難した場所（問10-1で避難したを選択した回答者）

- 一番最初に避難した場所は43%が避難所である。地区別では、遠浅地区が車中泊が多く、早来地区、追分地区、町外では親戚・知人宅などが多い結果になるなど、地区別に最初に避難した場所に差がみられる結果となっている。

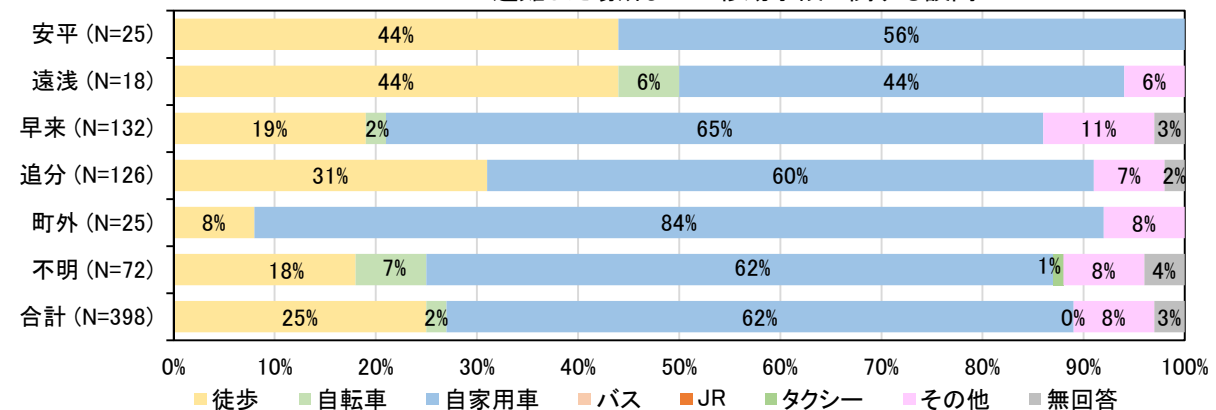
一番最初に避難した場所に関する設問



### 問10-3 避難までの移動手段（問10-1で避難したを選択した回答者）

- 避難した場所までの移動手段は、自家用車の割合が最も高く62%となっている。地区別では、安平地区、遠浅地区が徒歩の割合が高く、町外では親戚・知人宅に避難している回答者が多いことから自家用車での移動が多くなっている。

避難した場所までの移動手段に関する設問



問10-4 避難した場所で足りなくて困ったこと（問10-1で避難したを選択した回答者：複数回答）

- 避難場所で足りなくて困ったことについては、特に困らなかったが最も多いが、安平地区、遠浅地区、では、生活水の割合が最も高く、全体でも31%の回答割合となっている。
- その他、食料が23%と続き、水・食料の安定確保が課題であるほか、携帯電話充電器が16%を占めるなど、通信環境の整備も課題となっていたことが伺える。

	安平 (N=25)	遠浅 (N=18)	早来 (N=132)	追分 (N=126)	町外 (N=25)	不明 (N=72)	合計 (N=398)
生活用水	40%	50%	33%	33%	24%	18%	31%
飲料水	8%	11%	10%	5%	8%	7%	8%
食料	16%	33%	34%	21%	8%	13%	23%
タオル	—	—	4%	2%	—	—	6%
携帯電話充電器	12%	17%	21%	14%	12%	14%	16%
段ボールベッド	8%	—	10%	7%	4%	4%	7%
衣類	—	6%	8%	5%	12%	6%	6%
紙おむつなど育児用品	—	—	2%	4%	—	—	2%
医薬品	—	—	8%	4%	—	6%	5%
特に困らなかった	24%	33%	31%	37%	48%	31%	33%
その他	4%	6%	11%	6%	8%	8%	8%
無回答	8%	—	7%	9%	4%	10%	8%

※最も回答割合が高い項目に着色

問11-1 避難した理由（問10-1で避難したを選択した回答者：複数回答）

- 避難した理由は、停電や断水など自宅で生活するのが不安な状態だったからが56%で最も高く、次いで、余震がまだ続くと思ったからとなっている。
- どの地区でも概ね上記2つの回答割合が高いが、安平地区及び遠浅地区では、自治会町内会や家庭内でその場所に避難することを決めていたからの割合も高く、日常の防災意識が高かったことが伺える。

	安平地区 (N=25)	遠浅地区 (N=18)	早来地区 (N=132)	追分地区 (N=126)	町外 (N=25)	不明 (N=72)	合計 (N=398)
自治会町内会や家庭内でその場所に避難することを決めていたから	44%	22%	8%	14%	12%	18%	15%
警察や町の職員などに避難するよう呼びかけられたから	12%	17%	11%	6%	12%	7%	9%
自治会町内会など地域の人に避難するよう呼びかけられたから	12%	11%	10%	12%	12%	17%	12%
近所の方がそこに避難すると言っていたから	—	6%	5%	12%	—	1%	6%
自宅建物が壊れ、中で生活することができなくなったから	8%	11%	17%	19%	28%	22%	19%
停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状態だったから	44%	61%	64%	53%	48%	54%	56%
まだ余震が続くと思ったから	44%	33%	58%	54%	48%	46%	52%
その他	12%	22%	9%	9%	8%	14%	11%
無回答	12%	6%	4%	10%	4%	11%	8%

※最も回答割合が高い項目に着色

問11-2 避難しなかった理由（問10-1で避難しなかった・できなかったを選択した回答者：複数回答）

- 避難しなかった理由は、町外を除き自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったからが最も高い結果となった。
- 町外では、治療中の家族がいたためなどの意見が挙げられている。

	安平地区 (N=63)	遠浅地区 (N=197)	早来地区 (N=291)	追分地区 (N=421)	町外 (N=27)	不明 (N=160)	合計 (N=1159)
自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったから	75%	91%	80%	85%	41%	79%	82%
避難場所までの移動が困難だったから	6%	15%	3%	4%	4%	6%	6%
病人や身体が不自由な家族がいて、避難するのが困難だったから	5%	15%	2%	5%	4%	4%	6%
どこに向かえばよいのかわからなかったから	8%	3%	7%	5%	—	6%	5%
家族の安否が確認できなかったから	—	1%	1%	1%	4%	—	1%
避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから	—	—	2%	2%	4%	1%	2%
その他	10%	9%	16%	9%	48%	7%	11%
無回答	3%	2%	3%	3%	4%	8%	4%

※最も回答割合が高い項目に着色

問 1 2 災害時、生活する中で特に必要と感じた情報（複数回答）

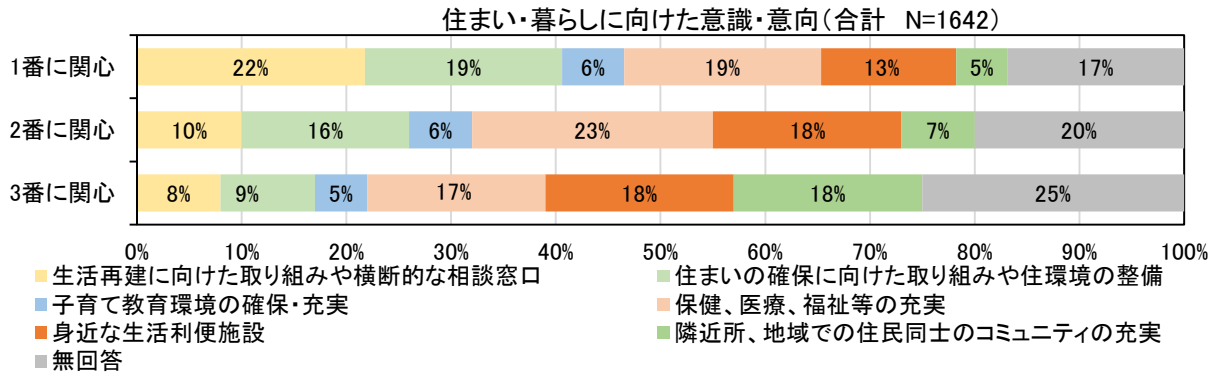
- 災害時、生活する中で特に必要と感じた情報は、電気・ガス・水道の復旧状況が84%で最も高くなっている。
- 次いで、ガソリン、灯油などの燃料供給状況が46%、食料などの支援物資の提供情報が44%、スーパーや小売店などの営業情報が41%と、生活インフラの復旧や飲食料品の確保に関する情報が特に必要であったことが伺える。

	安平地区 (N=92)	遠浅地区 (N=245)	早来地区 (N=438)	追分地区 (N=562)	町外 (N=56)	不明 (N=250)	合計 (N=1643)
知人や家族の安否情報	28%	19%	34%	37%	38%	30%	32%
地震・津波の情報	34%	36%	44%	40%	45%	26%	38%
天気・気温などの気象情報	9%	11%	19%	17%	16%	13%	15%
電気・ガス・水道の復旧状況	79%	83%	86%	88%	71%	78%	84%
道路の通行規制状況	20%	27%	32%	23%	32%	19%	26%
公共交通機関の復旧状況	12%	9%	14%	16%	11%	9%	13%
ガソリン、灯油などの燃料供給状況	49%	48%	49%	48%	39%	34%	46%
スーパーや小売店などの営業情報	38%	36%	41%	48%	34%	32%	41%
食料などの支援物資の提供情報	41%	47%	49%	45%	36%	34%	44%
仮設住宅に関する情報	2%	1%	3%	4%	11%	4%	3%
義援金などの生活再建情報	10%	5%	14%	14%	21%	12%	12%
その他	3%	0%	3%	3%	5%	1%	2%
特にない	3%	1%	1%	2%	7%	3%	2%
無回答	3%	12%	3%	3%	9%	8%	5%

### 3. 復興まちづくりに向けた意識・意向について

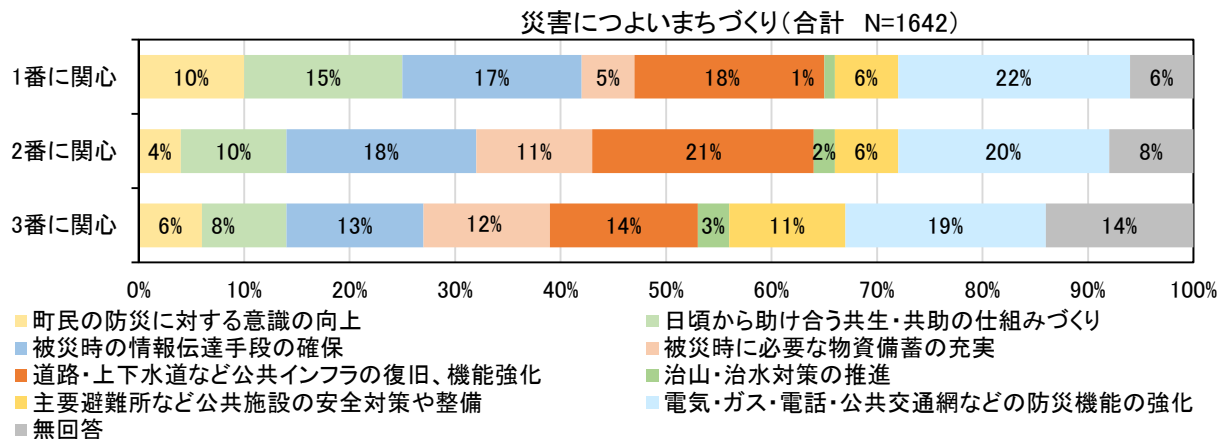
#### 問13 住まい・暮らし

- 「1番に関心がある」で最も割合が高い事項は、生活再建に向けた取り組みや横断的な相談窓口になっている。「2番目に関心がある」では、保健、医療、福祉等の充実、「3番目に関心がある」では、身近な生活便利施設、隣近所、地域の住民同士のコミュニティの充実の割合が最も高い。
- また、住まいの確保に向けた取り組みや住環境の整備については、「1番に関心がある」、「2番に関心がある」で上位に位置づけられており、高い関心が示されている。



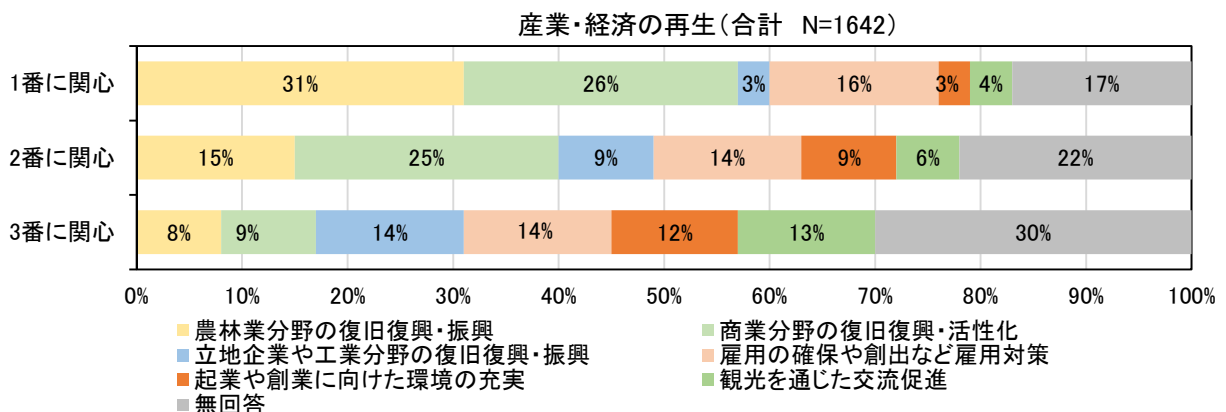
#### 問14 災害につよいまちづくり

- 「1番に関心がある」で最も割合が高い事項は、電気・ガス・電話・公共交通網などの防災機能の強化となっている。「2番目に関心がある」では、道路・上下水道など公共インフラの復旧・機能強化で、「3番目に関心がある」では、再度、電気・ガス・電話・公共交通網などの防災機能の強化となっている。
- また、被災時の情報伝達手段の確保も高い関心が示されており、多様な情報伝達手段の活用が必要であることが伺える。



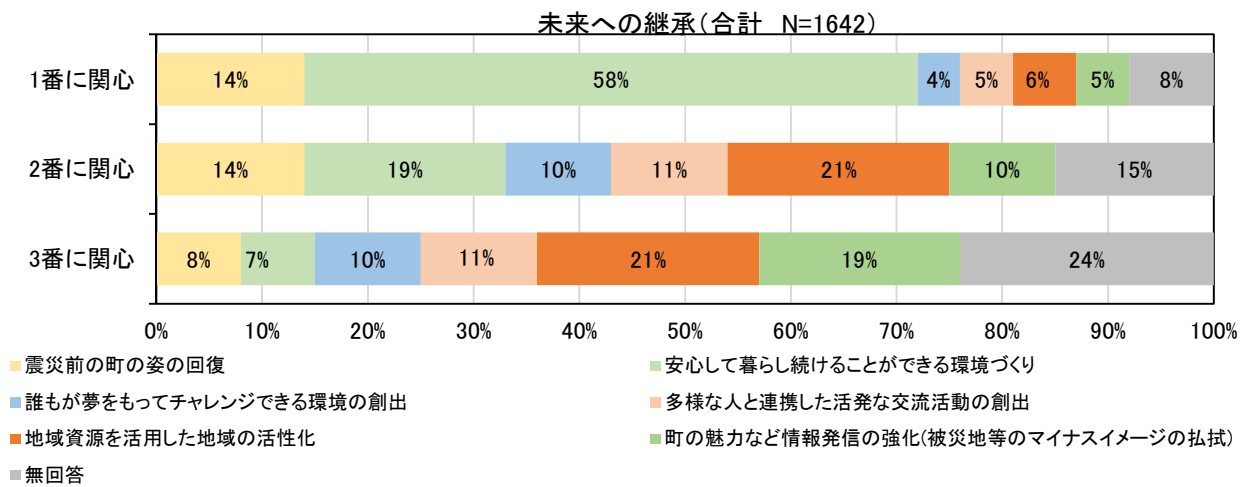
#### 問15 産業・経済の再生

- 「1番に関心がある」で最も割合が高い事項は、農林業分野の復旧復興・振興となっている。「2番目に関心がある」では、商業分野の復旧復興・活性化で、「3番目に関心がある」では、立地企業や工業分野の普及復興・振興、雇用の確保や創出となっている。



### 問 1 6 未来への継承

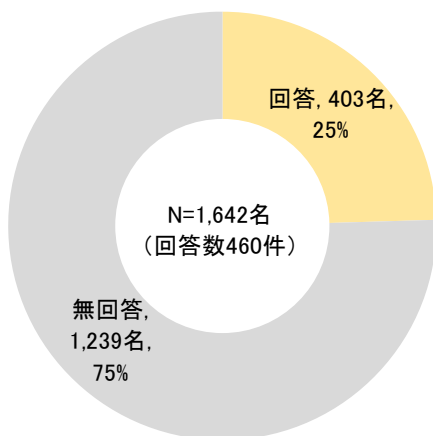
- 「1番に関心がある」で最も割合が高い事項は、安心して暮らし続けることができる環境づくりとなっている。「2番目に関心がある」では、地域資源を活用した地域活性化、「3番目に関心がある」でも、地域資源を活用した地域活性化となっており、その他、町の魅力など情報発信の強化（被災地等のマイナスイメージの払拭）も高い関心が示されている。



### 問 1 7 今後の安平町の復興まちづくりに関する意見

- 今後の復興まちづくりに関する意見では回答者全体の25%が意見を記入するなど、復興まちづくりに高い関心が示されている。
- 最も意見が多かったのは、情報伝達手段の改善（13%）で、次いで道路等インフラの復旧及び整備（10%）、災害対応への改善要望（9%）と続いている。
- 高齢者の回答として、買い物環境の改善と交通環境の改善を併せて要望する回答が多くみられた。

#### 今後の安平町の復興まちづくりについての意見



	回答数	割合
情報伝達手段の改善	55件	13%
道路等インフラの復旧及び整備	45件	10%
災害対応への改善要望	41件	9%
まちづくり(復興計画含む)への意見・提言	37件	8%
地域活性化・産業の振興	36件	8%
交通環境の改善	33件	7%
行政への意見	33件	7%
住宅等の支援・補助	29件	6%
高齢者への支援	25件	5%
教育環境の改善	14件	3%
定住促進	14件	3%
買い物環境の改善	15件	3%
医療・福祉の環境の改善	9件	2%
観光振興・交流人口の拡大	7件	2%
土地利用の改善	7件	2%
雇用機会の創出	5件	1%
子育て支援	6件	1%
道の駅に関する意見	5件	1%
精神面のケア	3件	1%
地域コミュニティの改善	3件	1%
スポーツ施設の復旧	2件	0%
義援金の用途	2件	0%
行政等への謝意	19件	4%
その他	15件	3%
合計	460件	100%

※回答者403名、回答数460件（複数意見があるため）